

なつたに違ひありません之からお婆さんも人でも雇つて賑やかに暮らしていらつしやれますね、私こんな嬉しい安心した事はありませんよ、ほんとーによござんしたね

お婆さん

と人事のやうでなく喜びました

お婆さんは御金持ちになつたのも嬉しいのですけれどこれよりかり、一の親切を優しい心が何よりうれしく

「之もリ、一さんが尋ねて来て下さつたから此箱も見出したのであなたは此御金よりも私に大事な人なのですよ」

と之もいらにも嬉しそうに兩人ともニコ／＼して其一日をたのしく過しました

それからお婆さんはリ、一さんのうちに行き其御話をくはしくしてリ、一さんを自分の子供にはしいと頼みましたリ、一もお婆さんが獨りて心細いのを氣の毒に思ひ喜んで子供になりましたのでお

お婆さんはリ、一を都の學校に入れそれから安心してたのしく暮らしましたとさ。

豆と石

乙 女

「豆わーい、時候になつて来た、是から僕の大きくなる時節だドレンロ／＼支度をしようかな」と大きな石のそばの土の上に落ちて居た豌豆が獨り言を云ふと之を聞き付けた大石は怪げんな顔をして

「豆、大きくなる？ 大きくなるつて何んことだへ」と聞きますと

「豆、大きくなるつて、知らないの？ それはね、君と僕と君の方が大きいだらう、そこで僕が今段々大きくなつて君よりももつと勢の高いものになると云ふことなのさ。」

「石、なに僕よりも大きくなる？、生意氣なこと

を云つて居るね、僕などは三十年から茲に斯うやつて居るけれど、ちつとも大きくなりはしない、お前などいくら一生懸命になつたつて吾輩などより大きくなれるもんか馬鹿なツ」

と云ふトタンにポツと云ふ音がしたので

石「オヤ何だへ今の音は」

豆「僕だよ驚くにや當らないじやないか、今僕が大きくなり掛けたのだね、是れ見て呉れ給へ」と云ふのを見ると

石「オヤ〜可哀相に小はけな癖に意張り散らすものだから腹が破けたではないか」

豆「ナニ腹が破けた？虚、是は腹ではないよ、僕の外套だよ最う暖かいから外套は入らないからね脱いだのさ是れから僕が大きくなるのだから見て居給へ」と云ひながら豆は外套の中から出した小さな頭を見る間に段々と伸ばして来て二枚の葉を出しました。

石「オヤ〜また變なものを出したねそれは何だ

へ」

豆「是か？是は葉と云ふものさ是で息をするのさ石息？呼吸つて何さ、僕なんぞしたことがないよ」

豆「そーだらう、君は生きもののぢやないもの、僕は生きものだからね、呼吸をしなければ生きて居られないからね。」と云ひながらドシ〜大きくなつて葉は澤山に出て来る蔓は長くなつて石の旁にあつた杉の木にはひ上つて遂々枝に迄からみ就いた。そして赤い蝶々の様な花を澤山咲かせて然も心地よけに涼風に吹かれて居る、之を見た石は

石「ヤア、立派になつたな、何うだらう此高くなつたことは一丈位もありそをだ。アンナ小さな豆が斯んなに大きくなり、そうしてこんなきれいな花を咲かすとは何と云ふ不思議なとだらう」と云つて感心して居ました。